

南芦屋浜地区教育施設用地 第2回意見交換会議事録

日 時	平成28年3月14日 19:30~21:30
場 所	芦屋市潮芦屋交流センター 2階 多目的室
出 席 者	山城都市建設部参事(司会), 岸田管理部長, 中村社会教育部長, 宮内技監, 米原企画部長, 山口総務部長, 脇本総務部参事, 三井こども・健康部長, 辻都市建設部長, 北野学校教育部長,
事務局人数	10人(その他(株)緑景2人)
参加人数	住民 52人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 説明
- (3) 質疑応答
- (4) 閉会

2 議事録

司会： どなたかご意見ある方は、挙手の上、発言お願いいたします。

市民： あらかた前回で住民の意見は出たと思い、今回は来るつもりはなかったのですが、スポーツ推進課さんから案内がでていると思います。いろいろな意見の中で、強調してほしいのが、図書館分室、交番の誘致、集会所などでしたがスポーツ振興がどんどん進むような感じです。そもそも論として、パイプラインの存廃、小学校の問題、そして今回の問題。いずれにしても、県営市営は別として、約10年住んで若い方もおられて、まだ、まとまりもなく自治会もつくれずにいて、意見の統合がなかなか難しい。芦屋市の自治会10ブロックの住民アンケートで、意見が出ていたはずですが。

私個人は、立派な総合公園があって、北側にはフットサルとかいろいろなものがある。そういう中でスポーツ振興されますが、スポーツ振興というイメージが急に出てきたので、来させていただきました。

予算の関係もあるでしょうから、堅牢な建物はつくらないということでした。課題はいっぱいあると思います。でも我々は、一度津波対策で、防災訓練をした時に県営市営の3階以上に上がるのに、住民の何パーセントが参加したかわかりませんが、非常に困難です。水が浸かった場合に、水が引くまで、そこに待機することは困難であろうという認識のもとに、津波と高潮対策の避難所が必要です。瀬戸内海だから台風は大丈夫であろうと思い、住みましたが、大きな台風が予測されるなかで、高潮の問題が危惧されます。そ

の避難所の整備もされないまま図書館や交流施設を考えられた場合に、避難機能と共存できるのかとっていたのに、この場で報告されたのは、交番の誘致も含めて住民無視だなと思いました。パイプラインも小学校建設も、今回の教育施設の問題も住民の要望は一切反映されてないじゃないですか。まちなかライブラリーを図書館みたいなお話をされてますけど、図書館を持ってきたいということは、老若男女が文化的に過ごせる施設をたくさんの方が求めておられるということですから、スポーツ振興とされるのは問題があるでしょう。これについてしっかり回答していただきたいというのが1点目です。

もう一点は、市の管理ではなく管理委託されるのですね。それはそれでいいのですが、総合公園と、交流センターが管理されている。そして新たにここでできるのですが、きな臭い話をしますと、総合公園の最初の管理者がヘッズさん、つづいて阪神園芸さんがされてきました。この二つの団体は、住民サイドから見ると、芦屋の強い力を持っている方に翻弄されながら運営されていました。コンプライアンス上非常に問題のある運営をされていて、住民も翻弄されました。小学校の問題でも、住民が二つに分かれて対立しました。そのような観点で考えた場合に、また新しい管理委託をされて、民間の方が来られて、適正に運営できるのかなと思います。今ミズノさんという大きな会社が来られて、コンプライアンス重視ですっきり管理されて安心しています。恐らく3年後にはまた変わります。その時も含めて、指定管理の問題をもっと責任を持って、住民サイドの一つの力とか権力に対して動かないような形の運営管理をしっかりしてもらいたい。そういう意味では、今の総合公園の指定管理者とは別でも良いのではないのでしょうか。スポーツゾーンというのは基本的に、運動公園でやられたら、十分施設もあって機能すると思っています。テニスコートの増設ぐらいではないですか。追加施設は。フットサルも改修されて、よりいい形で運営されていると聞いています。

ここにしっかりとしたものを立てて、恒久的に避難所を我々がしっかりと安心できるような、文化的にも価値のある施設を構築してもらえのだろうと期待を持って、要望を出していたにもかかわらず、今日の内容は、どういうことなんでしょうか。皆さんいろいろな意見があるかと思うのですが、私としては心外です。自治会活動の中でもいろいろな意見がある中で、小学校の件もあるので、芦屋市さんしっかり考えるので、まず預けましょうという話までして、期待して出てきたのがこれですかと。以上についてしっかり答えていただきたいと思います。

司会

今おっしゃっていたのは、図書館とか交番は、こういうことかというのを伺いたほうが良いでしょうか？

- 市民：**　　こういうことというよりは、予算的な問題もふまえて、検討課題はあると思いますが、住民サイドから出た問題というのは図書館という文化的な存在ですよね。交番という治安をしっかりと守ってもらう施設。これは県警との相談もあると思いますが、この土地の影響によって交番の誘致もあながち不可能ではないと思います。その辺のプロセスが今の説明では全く欠けています。図書館を分室としてつくれば、津波高潮対策の問題も研究していただけるのではないかと。ここの防災についてどう考えておられるのか、県市営で本当に津波対策として、水が引くまで我々が 2、3 日間過ごせるのかということを考えておられるのか。私から見たら、全く不可能じゃないのかと思っています。だから、そういう施設の要望があったにもかかわらず、堅牢な建物を建てないというのは、どういう考えなのかということなのです。
- 司会：**　　3 つの質問について、市がまとめた方針を説明します。交番については、今駐在所ですが、それを交番に格上げをしてくださいと市から芦屋署にもお伝えしています。芦屋署から県警のほうにもお伝えしているということだけの回答にとどまっているので、今すぐ駐在所が派出所になるというようなことにはなっていないという状況があります。それから図書館についてです。
- 社会教育部長：**　事業手法としましては、委託という話が出ていましたが、事業者を公募させていただいて、事業者で民間運営していただくということで、土地を取得した以上のお金をかけずに良質なサービスが提供できないかと事業者を募ります。市としては堅牢な建物はつくらないという方向ですから、図書館は本館がございますので、十分ではないのですが、皆さんに休憩をしていただけたら、事業者提案の中で運営していただけたらというところです。
- 司会：**　　防災はどのような観点ですか。
- 市民：**　　防災については、地震や火災対策という面がありますが、この辺の広域避難所は総合公園で十分機能を果たしていると思います。あそこには、100 t の上水が保存でき、震度 5 に耐えるタンクが貯蔵されていますし、防災倉庫もあって、恐らく、現在住んでいる人たちが 3 日以上食べるには困らないだろうと。暖を取ることも比較的厳しいですし、発電設備は貧弱ではありますが、仮設の水洗トイレなどあり、そういう設備が整っていると認識して、安心はしているのですが、高潮の時は水に浸かってしまいますので、使い物にならないので、2、3 年前にこのエリアの全員を避難場所に避難させたところ、つかえて登れないんです。お年寄りも小さな子供さんもおられるなかで、安全に避難できるという状況になっていないと認識しています。これが十分機能していると市が認識するならば、説明していただきたいのですが、昨今のスーパー台風の予測の中でいうと、これからどんどん大型化した台風が来るとか、現状のビーチ自体も 1 年間住んで台風が来たときにビーチの波

の状況を見ているのですが、以前は砂浜の 1/3 ぐらいしか来なかったのですが、今、ひどい時は、護岸まで届いています。これは、何が原因かはわかりません。我々としては、津波高潮に関して大丈夫だといわれていますが、何が起きるかわからないために、避難所があると考えると今の県営市営で 3 階以上に上がって、この町の全員が避難して、そこで水が引くまで生活を営むというのは無理だと思います。特に冬場とか死亡してしまう方がたくさん出ると認識しています。ですから、市は理解してこの施設に避難所が必要ではないですかということを受け止めていただいていると思っているのに。今も民間事業者に投げて、その公募の中からされるとおっしゃいましたが、本当に住民の事を考えてされようとしているのか、単に公募していい案が出たからやるということではないと思います。

都市建設部長： 今、避難所のことをおっしゃっていただいたので南芦屋浜で、津波避難ビルは県営住宅、市営住宅にお願いしています。キャパシティとしたら、4,600 人の方が逃げただけという形になりますので、南芦屋浜は、他に高層マンションがありますが、そういう方はご自身のマンションの上階若しくは 3 階以上の方はそのまま避難しなくても大丈夫だと思いますので、そう考えますと、4,600 人のキャパシティがあるので、十分避難していただけると考えています。今、地震の時 3 階まで上がるのにどうするのかということですが、地震が来たらエレベーターは使えません。エレベーター会社の点検を受けて問題がなければ解除しますので、基本的に地震がきて津波が来るのが 111 分ですから、その間エレベーター会社の点検が間に合うかというたぶん無理です。ですから実際は、人力で 3 階まで上がっていただくということになりますので、今、市で用意しようとしているのは、お年寄りや障害のある方を 3 階までというのはなかなか難しいので、例えば引っ越し屋さんが重たいタンスなどを階段で運ぶおんぶひものようなものがあるんですね。そういうものを用意して自力で上がれない方については、事前にお配りして、それを利用して上がっていただくかと思っています。あと、水が引くのに時間がかかります。それについては、実際は 5 階とかに避難していただければいいのでしょうけれどもなかなか難しいので、協力していただけたところは、毛布と携帯トイレを配布してくれということところは配る想定です。ただ、完璧に対応するのは難しいのですが、今、市ではそういうふう考えています。

市民： それに対してですが、確かに物理的には、4,600 人の方が 3 階以上に避難することは可能だということですが、踊り場を含めて階段の雛壇を何階まで上がったら 4,600 人になりますか。

都市建設部長： 3 階以上の廊下です。

- 市民： 3階以上のどこまで上がるのですか。
- 都市建設部長： 3階以上上がっていただいたら大丈夫です。
- 市民： 3階に4,600人存在できないですよ。3階以上ですね。また、吹き降りの場所で、どうやって過ごすのか対策は全く考えられていない。例えば、真冬にどうやって暖を取るのですか。何の設備もない中で、避難はできたけど凍え死ぬじゃないですか。だから、それが避難計画としてできてない。確かに今の設備で全員が避難することはたぶん無理だと思います。でも今の不備な部分でもある程度、密度を低めて分散して逃げることができれば、もう少し緩和されるでしょうし、新しい設備に関しては、屋上なら屋上で避難対策をとれる設備を設けて設置されれば、十分納得のいく話だと思います。避難所をつくってくださいという話を住民アンケートでたくさん出たという話は、恐らく、そこでは避難できないと思っているからだと認識します。避難しても生命を維持することが困難だと。排泄の問題も含めて、避難所として生きていくのが困難だということが分かっているので、皆さんがそういう意見を出されたと思います。私の私見だと思われるか、どうかわかりませんが、水が引くまであの場所で暖を取って、生き延びるということは困難ですし、どうやって救援物資を渡すのか、非常に効率の悪い作業になると思います。ですから、そういうことが必要になるのではないのでしょうかというのが私の根拠なんですけど。
- 司会： 市の防災担当でも検討はしているものの、この土地の中で避難に係る対策を補完したらどうですかということですね。
- 市民： ですから、3階のフロアだけでまかないきれないので、5、6、7階と上がるのですけど、住んでいる住民の方が出入りできない状態になります。親切な方は、入れてもらえるかもしれないですが、見ず知らずの人を自分の家に引き込んで助けようとするのは非常に困難です。少なくともあそこに避難される方は、今回の新しい施設で1,000名、2,000名分の場所を確保して暖を取って食料の配給もあるという形が一つのスタンスかと思います。それと、プラス図書館の分室的なものができれば、基本的に我々の安心安全なまちづくりに寄与してくれるのではないかと思います。お金はかかることですが、時間をかけてじっくりやっていただきたい。それを民間に委託するのであれば、責任を持ってコンプライアンス、責任のとれる事業主に対応してもらいたいと思います。本来ならば、市が運営するべきだと思いますが、土地買われましたけど、コストが高くついて仕方がないというならば、避難所だけでも設けられたらどうですかというのが、私の案です。非常に怖いんです。ハザードマップを信頼したいですが、高潮が来るのではないかとということですが、今、海の前に住んでいますから、脆弱だと危惧を持って生活しています。

- 司会 :** この土地で、防災機能をきっちり備えるべきですよと。
- 市民 :** 文化的なまちとして、芦屋ですから、図書館の良し悪しを考えてもらってもいいのですが、交流ゾーン、まちライブラリーなどハコだけつくっても交流できないです。やはり、芦屋市さんが次世代の方も含めて交流できて、文化的な拠点となりえるかということを考えてもらいたい。少年サッカー、フットサル、テニスは、他にも施設多くありますから、根本的な問題として、コンサルさんも入っておられるなら、しっかりそういうことをにらんで、対応して考えていただきたい。ですから、土地は買われましたけど、来年ミズノさんではなくなりますが、計画が練れて住民と合意ができて、こんな施設ができてうれしいとなるまでは、早急に着工されたり事業主を募集したりするのはおかしいのではないのでしょうか。今までこういうことを言っているのは、パイプラインの問題、小学校の問題、住民不在でころころ変わって、いつも不安をあおられて、住民は翻弄されてきているわけで、今回の教育施設はそういうところを市長も含めて反省していただいて、その反省をもとに住民総意の納得できるものを建ててほしいと思います。不可能であれば、自治会として反対運動をおこしていかないといけないと思います。芦屋市に対する不信は極まっています。よく理解してやっていただきたいと思います。いろんな面で、しっかりやっていただいていることには感謝しますが、この問題については、しっかりやっていただきたい。回答をしっかり出していただきたい。
- 市民 :** 私は、ここの住民ではないですが、ミズノスポーツプラザ潮芦屋の室内のテニスコートを家内とよく利用させていただいています。それはなぜかという、いいことがあるわけで、室内のコートは市内に他にはないですし、ミズノさんがやっておられるということで、イベントであるとか、テニスを教えていただいたりとか、ソフト面でしっかりとやっていただいているとも思います。フットサルやテニスは利用者が芦屋市の中でもかなり多いと思います。それを今、お金をかけてつぶして、新たな建物を建てるのは、なぜだろうかと思います。現在、利用状況がどのくらいの人数が利用されているのかということもお調べになられたのかという風にも思いますし、そのジュニアの方も全国ナンバーワンの子が出たり、成果も出ていると伺っています。芦屋市全体としてみれば、これから土地は余るであろうと思います。例えば、市営住宅が集合化されて今ある市営住宅の跡地は、どのようになるのかと思ったりもしますが、そういった土地があるにもかかわらず、今ある施設をつぶして、新たにお金をかけて施設をつくろうというのが、どういう意図があるのかと思います。今、防災のお話がありましたが、疑問だと思っています。また、図書館の要望もありましたが、朝日ヶ丘町には図書館がありません。

ここから本館に行く距離と、朝日ヶ丘町の自宅から大原分室までの距離と比べると、本館に行く方が近いかと思います。

また、交流スペースと、まちライブラリーがあったほうが良いということですが、朝日ヶ丘にそういうものがあるのかと考えると、あまりないのではないかと思います。芦屋市の南の方に芦屋市はお金をかけていると思いますが、その辺の北と南のバランスも考えて使っていただきたいと思います。

司会 : 施設を潰す、潰さないというお話がありましたが、今は、ミズノさんがやっておられます。その施設の扱いはまだ決まっていません。あくまでも、事業者にこういう機能で公募しようと思っていますが、提案内容で決まります。

市民 : こういう施設をつくろうとしているのは、潰してからではないのですか。

司会 : ただ、クラブハウスは老朽化しています。そういうものは、手を加える必要があると思います。

それから、市営住宅の跡地のことですが、市で売却処分を考えています。余った土地となるということは考えていません。

市民 : 土地は、芦屋市の所有地で市民の財産であることに間違いはありません。この地域は、バスの便も少ないし、郵便局もありませんし、小学校もありません。南芦屋浜のまちづくりが大事です。市内のあそこにはないからこっちも我慢しなさいではなく、住みやすいまちを市としては考えるべきだと思います。認定こども園ですが、0歳児からみえます。災害の時には逃げられません。個人的な意見とすれば、マルハチの横に認定こども園をつくれると思うのですが、それはさておいたとしても、子どもの命を守るべきだと思います。

市民 : 朝日ヶ丘の方に対して反論ではないですが、今回の小学校がダメになった背景に、市長から住民にヒアリングがあり、これからのまちづくりに対して意見をまとめて出してくださいとのことでしたが、今言っている意見は、その意見です。この土地は、県から20億も出して買いとらされて、こんな施設をつくるのだったら、ミズノさんのままでいいです。このエリアにフットサルとか少年サッカーとかテニスはそれほどでもないですが、野球やラグビーがきます。そうすると住宅地に騒音の問題が出ます。音楽などで、悪意はなくても夜11時ごろまでガンガン響いてきます。それを自治会とミズノスポーツさんで話し合いながら、被害が出ないようにして運営していただいています。そこは、非常に良心的で信頼できます。その観点から行くと、新しい事業者さんが来て、発言しても聞いてくれなかったり、子ども園がどのくらいの騒音が出るかわかりませんが、現状でいうと砂塵も巻きあがったり、車も汚れますし、そういったことにミズノさんは対応していただいています。ですので、20億使ってこんな建物をつくろうとするのはやめたほうがいい。今後もミズノさんに貸し続けて運営していただいた方が信頼もできる

し、余分なお金もかかりません。買い取られた手前、こんなもんつくってこわすというなら必要ないんじゃないですか。避難所もつからない、検討しないのであれば、血税を無駄に使わないでください。朝日ヶ丘さんのテニスをやっておられる楽しさ、近隣のご夫婦も休日通われて楽しんでおられる方も私は見えていますので、ミズノさんで十分機能しているのではないかと。避難所も文化的な拠点もできないのであれば、全くお金かける必要はないと思います。

市民： 避難所を海沿いに立てることは、心理的にどうかと思います。マルハチの横のいまだに空いている土地に図書室分室や児童館、本当なら小学校があれば避難所になるし、良いのですが、小学校が無理というなら複合施設を建てて何かあった時に避難所にするとか、前から思っていました。海沿いの土地に固執されていますけど、別にいらないので思っていました。マルハチの横は子供さんが学校帰りにあそこを通ります。通学路にベンチがあり子供さんが座っています。寒いのにそこでしゃべっているのを見て、マルハチの横にそういう子供さんやお年寄りが集える施設、勉強ができたりする場所があれば、子供さんが夕方寄れたらいいなと思っていました。避難所もああいうところにあれば安心です。市営や県営住宅の住人ですが、逃げるのはいいのですが、あんなところは居て1日ですよ。阪神大震災の経験から言うと、避難場所は1週間必要です。地震が来て橋が落ちたらここは陸の孤島になりますから、どうしてもここで1週間以上は避難しておかないといけない。それを考えると海のほうの建物に津波が来て、心理的に行きにくいです。マルハチの横がいいのではないかと思っていました。だから、あの土地を買うよりもマルハチの横を買ってつくるほうがいいのではないかと思います。

司会： マルハチの横は住宅用地です。

市民： でも最初にここに入った時に、企業局の方が来られて最初は中層のマンションが建つ予定と聞きました。それが変わった。リゾートマンションもあのようなものをつくるとは言っていませんでした。ですから用途はいくらでも変えられるのではないですか。住宅用地なら何になるか気になります。中層住宅になったら、市営、県営住宅の部屋が見えるので、そういう声もありました。それで一戸建てになったのかと思っていました。ずっとあのままなので、そうしたら複合施設になったら避難所にしたらいいのにとします。あの場所が一番いいです。

管理部長： 今のご意見は、マルハチの横にテナント等を建てて、教育施設用地は現状のままでもいいということですか。

市民： はいそうです。ミズノさんがやっていて、問題もなければです。

司会： 説明したいことがありまして、この用地は、住宅ゾーンという位置づけがな

されていまして、兵庫県企業庁が持っている土地です。潮芦屋プランという計画書がありますが、その中では住宅となっています。低層中層の区分は、ありません。

市民： それは、当初そう決めただけであって、変えられるでしょう。ホテルなど最初なかったです。決めた住宅を押し付けるとするのは違うと思います。そのあたりは、市が県にこういう形にしたいですと言えば、できる話ではないでしょうか。

司会： 兵庫県企業庁が見直しされて、現在住宅ということです。

市民： あそこは、一番、人が集まるんです。スーパーや交流センターなどがあります。小中学生の通学路にあたります。その辺を考えると、一番いいです。

市民： ここでは、議論をバックさせたくないです。我々はまちづくりをしてほしいのです。それを進めたいと言っているのです。アンケートの中に、防災の事は真剣に考えていただきたい。それから、色分けの境界は考えてますか。

市民： 例えば、子ども園と多目的スペースの間です。そこは、完全に区切られた状態ですか。

司会： それは、全然考えていません。ここは、認定こども園なので、ちょっと区切りはいると思います。行ったり来たりが自由ですは、だめでしょうけど。

市民： 何かの形で交流があってもいいのではないかと思います。

司会： それはいいと思います。

市民： 壁を建てないでと言いたいです。それと、防災についてですが、避難しますと。避難したらどこの部屋を使うのですか。

都市建設部長： 今議論が混乱していると思います。津波の一時避難、東北でいうと山のほうに皆さん逃げておられましたよね。あの機能と避難所の機能と別なので、今、私が申し上げたのは、ここには山が無いのでだからビルへ逃げてくださいということです。それは4,600人のキャパシティはありますが、今、言っていた1週間というのは全く考えていません。東北も山のほうに1週間おられたということはありませんから、津波が心配ないということになれば、そこから降りていただくということです。

市民： 言われているのは3日自分で食べないといけないということですが。

都市建設部長： 3日というのは、全市民に飲んでいただく水を用意しています。

市民： 暖を取ることをどうするのでしょうか。

都市建設部長： 津波の一時避難の時ですか。

市民： 地震発生から3日間です。

都市建設部長： 3日間となると、建物の中というのが基本になります。潮見小学校校区では850名、小学校で340名、中学校で450名、潮見集会所で60名です。南芦屋浜では、県営住宅の集会所で30名市営住宅の集会所で30名計60名のキ

ヤパシティしか用意できていないので、南芦屋浜で長期の避難になった時にどこで過ごしたらいいのかということですよね。あとは、いろいろなことを考える必要がありますね。

市民： 与えられたものを皆で最大限に活用しようというのが私の姿勢です。市の引き金で与えられたものだから、それをどううまく活用するかを考えないといけないです。

市民： 先ほどの交番の話で違和感を感じましたが、前回の説明会の時に潮芦屋近辺の治安が不特定多数の方がこられるということで、非常に悪いです。今回、認定こども園ができることに対して、現在、十分ではない警察機能を、この土地に駐在所を誘致してということですが、駐在していないときは、本署から15分20分かかって来て、物事が大きくなります。先日、総合公園で10人ぐらいの人間が問題を起こしました。私は、その時、別の場所で問題があって、110番などしていたら、総合公園の方の対応で警察はおおわらわでした。その観点から言うと、しっかり治安を守ってほしいというのは、ここ10年来自治会からも、ここに設置ということで申し述べてきたにも関わらず、駐在所を交番に昇格みたいな話で、とんちんかんに聞かれているのではないですか。前回の議事録見たら載っていると思いますよ。ここに誘致をしてほしいと。交番の要望は住民のアンケートでも非常に多かったもので、基本的にこんな施設に金をかけるのであれば、得体のしれない事業者がこのまちにやってくるぐらいならば、このままミズノスポーツさんに定期借地で運営してもらっている方が住民サイドとしては、わかりやすいです。この土地ばかりにお金をかけてという思いをしたくないですから、しっかりと時間をかけて、予算化をして、ビジョンをつくらないと、付け焼刃みたいなプランが出てくるのではないですか。10年、20年の定期借地を考えながら、ミズノさんに運営していただいて、予算を積立てて、このまちに必要な施設を構築していただいて、住民合意のもとでやっていかないと、早急すぎるのではないですか。前回の説明会でのいろいろな意見が反映されていれば、図書館、避難所、交流、もう少し私たちが納得する形で提示されれば賛同してやってくださいと言えますけど、こんなものに金かけて、皆さんどう思われますか。しかも、前回の質問の趣旨から逸脱した回答をもらっても何にもならないですよ。駐在所の昇格は一切言っていないです。

司会： ここに交番という施設を持ってきてほしいというご要望それは分かっております。ただ、芦屋署では駐在所を交番に変えるということを県警のほうに伝えられているとそれは、事実として申し上げておきます。

市民： 強く要望を出していただきたい。いろいろな面で付加を考えた場合に、このエリア全体の利用者が芦屋市民だけなら治安が安定しているというならい

いのですが、非常に脆弱な状況で西は姫路から大阪市内から南のほうから湾岸線もありますから、どんどん流入しています。その中で、治安を守る拠点として交番がこのエリアにあるというのは有効ではないでしょうか。芦屋市さんも県警に対して芦屋署と一緒に陳情していただきたいです。芦屋署が駐在所に昇格させたいというのは他人事の話ではないですか。交番も避難所もできないいい加減なものがいい加減な形でつくられるのであれば、必要ないです。今まで、たくさんの方がミズノさんに魅力を感じている施設を潰す必要はないと思いますよ。できないのであれば。そんなものにお金をかけたといわれたくないです。

市民： この地区に住んでいますが、防災の件ですが、子どもが2歳と5歳です。5歳の子が幼稚園に入るときに、何かあった時に連絡先はどこにしますかというアンケートをとられて、安否確認目的だと思うのですが、正直どこを書いていいかわかりませんでした。高い建物は、市営県営たくさんあるので、一時避難は安心できますが、1日から3日過ごすとなれば、絶対そこでは無理だなと思います。やはり、津波が来てしまったら、1日で一時避難場所から動けるのか、どうやって過ごしたらいいのかわからないです。ましてや2歳と5歳の子供を連れて、県営市営の踊り場に行ったときに、どうやって過ごすのかということがあります。2号線越えたら安全と聞いたので、宮川の施設を書いたのですが、橋が落ちたらどうするのかということがあって、橋が落ちたら逃げられないですね。どうしても県営市営のほうに行くしかないと思います。やはり、3日間という問題が出てきます。そういう施設が欲しいということですが、20億で土地を買って、それ以上お金を使えないということでしたが、小学校の場合だと安く手に入り、小学校を建てて防災に利用して、20億超えてしまうかもしれないですが、小学校を建てて防災機能を付加してということではできないのでしょうか。

都市建設部長： 3日間ということですが、基本的には水平避難をまず、考えてください。少なくとも国道43号線より北側で、津波となれば43号線より南の避難所は、使えない可能性がありますので、水平避難で43号線まで到達しない方は、垂直避難をしていただくという形になります。水がいつ引くかということは、非常に難しい問題ですが、3日間引かなかったというのは、東北ではなかったです。水浸しということはあるでしょう。

市民： 南の施設は使えないですね。

都市建設部長： ですから、水が引いたら北の避難所へ移っていただくことになります。

市民： 橋が落ちたらどうしますか。

都市建設部長： 橋は、潮風大橋、浜風大橋も足があるタイプなので、絶対とは言い切れませんが、落ちるといことはまず考えにくいです。段差が非常に激しくて、自

動車が通行できないということは無きにしも有らずですが、全く人が渡れないかということは考えにくいと思います。

市民： 水平避難という話は、初めて聞くのですが、ここらの住民の避難は、津波高潮の場合の避難場所というのは、県営市営ということを知っていて、水平避難ということは一切聞いていません。しかも、まず芦屋浜は、南芦屋浜よりも海拔が低いので、避難プロセスの中では芦屋浜に到達した津波は施設のほうに行く可能性もあって、水平避難という問題は我々に提示されていましたでしょうか。

都市建設部長： ずっとお話しています。

市民： 津波高潮の避難場所は、津波避難ビルですからそこに避難してくださいと聞いて、そのために訓練したわけですから、皆、そこに行くと思っていますよ。水平避難した場合に、足の速い人は、1、2時間もあれば大丈夫だと思いますが、高潮の場合一気に来ますから、そんなことできないじゃないですか。

都市建設部長： ただ、高潮の場合は、急に突然高潮になるということはないです。台風が接近したら高潮になりますので。県のシミュレーションでは、ここは大丈夫です。ただ、想定外というのは必ずありますので。

市民： ですから、想定外のための津波高潮で、県営市営が、僕らの一時避難所という前提に立っていて、水平避難ということは聞いたことがありますか。そんないいかげんな話を。

都市建設部長： いい加減な話ではないです。

市民： ハザードマップに書いていますか。

部長： 書いています。まずは水平避難で逃げ遅れたら垂直避難です。

市民： 水平避難した時に海拔の低い高浜のほうの水没していたらどうするのですか。

都市建設部長： 臨港線から国道43号線までは確かに低いです。だから、111分以内に43号線より北に逃げてください。

市民： 要は老いた母親を見捨てて、自分たちだけ逃げればいいのですね。

都市建設部長： そういうことはありません。

市民： そういうことですよね。

都市建設部長： 極論ばかり言われても。

市民： 極論ではないです。だから、僕たちは、避難所を兼ねた施設を要望したわけですよ。それが無いということはおかしいじゃないですか。皆さんどう思います。この前の意見会で、しっかり伝えたじゃないですか。僕は途中退席したからそういうことはできませんという回答があったかわかりませんが。水平避難の話一切聞いていないですよ。どこへ逃げろというのですか。

司会： いわゆる先ほどおっしゃっていたことの繰り返しになりますが、この土地に

ついて防災機能を充実すべしということですよ。

市民： これだけ憤って、ものを言っているということは、お金かけてつくるわけで、先ほどから何回も申し上げていますが、パイプライン問題でも、ものすごく僕らは翻弄されました。芦屋浜のエリアでは、小学校建設で、市長は、選挙のためにやると言っていたことを撤回した。それも容認したじゃないですか。今回、意見集約して、住民の納得いく施設をつくりたいということが、全然、反映されてないじゃないですか。僕たちにわざわざアンケートをとらせて。ボランティアでやっているのですよ。今も水平避難しろとか、そんなこと可能な人とそうでない人と分別して対策を取るというんですか。極論といわれるけれども、災害というのは起きた時は、極論で済まないですよ。どこが極論なのですか。極論であっても、ハザードマップで大丈夫であっても避難所は設けてあるわけですよ。基本的につまらないものをつくるのであれば、ミズノさんのままでいいじゃないですか。お金かけて、やる必要ないじゃないですか。それについて検討して回答ください。

司会： お金は、必要であるものを支出していくべきであって、無駄なものをつくらうとしているわけではありません。

市民： だから住民意見が反映されていないのだから、あなた方が適切と思おうが、住民サイドとしては納得いかないです。それを私が長々と述べて、誰かさえぎる人がいるのであれば、私は考えを改めますけど、大方の気持ちを代弁しているのではないですか。それを無視してやられるなら、勝手にやればいいじゃないですか。住民サイドとしては、そういう運動も起こしていかないといけない。対立軸になるだけじゃないですか。

司会： そういうことは何も考えていません。

市民： ミズノさんでいいじゃないですか。つまらないものをつくるのであれば。新たな指定管理者を呼んでほしくないですよ。利権が絡むので。

司会： 委託しましても、指定管理や業務委託などいろいろな方法がありますが、決して市民の皆様や利用者にご迷惑をかけるような運営は決してしませんので。

市民： ミズノスポーツさんは、約 10 年間このまちで一緒に育んではるんです。それを潰して、我々の要望を踏まえて、芦屋市さんがしっかりしたものを建てて、このまちを活性化させていき、安全安心なまちづくりに寄与していこうということであるならば、我々もお金を使っていた方がいいのですが、一納税者としても無駄な金ですよ。こんなものつくったって。

市民： 新興住宅地と思って、このまちに引っ越してきたのですが、最近、企業庁の動きを見ていると、フリーゾーンにホテルができたり、観光地にシフトしてきているイメージが強いです。先ほど、マルハチの横の土地を利用したらど

うですかとありましたが、即答で、あそこは住宅地になっているとおっしゃっていましたが、噂で、あそこは民間で老人ホームができるとありました。そんな中、この土地を民間委託と考えてますと言われたと思うのですが、だんだん、この土地に人のつながりというか公共施設的なものが全く感じられない。まちが活性化されない、守られていかないというイメージが強くなってきているので、住民を見離さないでくださいではないですが、市の方に訴えかけていると思います。なので、あの土地は住宅地ですからとポンと言わずにもっと市が本気で、住民が望んでいるなら、あの土地を購入できるか検討しますと言われてもいいかと思えます。市が本気になれば、このまちが変われると思っているので、ここまで皆が、強く言っているのです。その辺は喧嘩じゃないので、もう少し考えてほしいと思います。

司会 : このまちのこと、人の賑わいとか活性化とかを市はきっちり考えています。それから、みなさんのこの土地に対する思いは前回聞かせていただいておりますので、今日、この場でやっております。安全で安心なまちというのは、市がきっちりやっていかないといけないと思っています。

市民 : 防災機能の付加と言われてはいますが、具体的にどのようなものを考えてますか。津波は水平移動で確かにそのとおりに思いますし、津波だけが災害ではないですし、どのようなことを考えてますか。

都市建設部長 : 避難所は、潮見小学校区では、850名のキャパシティを用意していますが、南芦屋浜だけなら60名のキャパシティです。避難所の機能を、ここを含めて、ある程度、今後確保していかないといけない、建物でしたら避難していただけるような工夫とかしていかないといけないと思っているのが1点目。2点目が、総合公園が、大災害の時の物資の集積場所になっています。総合公園の高速道路の下は、もろに雨はかかりませんが、そのような場所も含め、物資を集積できたらと考えています。例えば、今、インドアのテニスコートがありますが、そういうところも大災害が起こったら、物資の集積場所として想定できるであろうと考えています。

市民 : 建物を建てることも民間に委託すると考えているのですね。

司会 : そうですね。

市民 : 災害対策はお金にならないので、稟議書を出しても認められないことが多いのですが、避難所と文化施設と両立は難しいと思います。避難所に人が集まると物資の集積ができず、物資を集積するには駐車場が要りますし、ヘリが着陸出来るところも必要でしょう。

都市建設部長 : 市内には、ヘリポートが総合公園と中央公園と神戸との境にあります。

市民 : そこは避難所としては使えないということですね。

都市建設部長 : そうです。

市民： 集積所をつくることで援助隊が来るということですし、周辺の住民にも恩恵があります。災害対策計画の位置づけもこれからしっかりしていかなければいけないですし、建物をつくる際にも固いものをつくらないとおっしゃっていましたが、本当にそれがいいことなのかと思います。津波が来ることを想定するならば、自家発電機とか衛星電話とかも必要でしょう。津波などが来ると孤立するため、市や県の災害対策本部と連絡を取ったりすることも必要です。

市民： その点について、ちょっと誤解があるようで、私なりに説明したいのですが、今回のこの建物に対する要望は、津波高潮の避難場所として要望を出しています。総合公園に 100t の水が確保されているタンクがあります。これは、島民が実質 3 日間しか使用できないですが、腐らない限り 6 日程度持つ飲料水です。防災倉庫の中は、避難可能ですし、防災課から聞いているのは、総合公園のグラウンドが、ヘリポートの代わりになります。潮芦屋ビーチから、護岸から船の物資輸送が来ますので、物資輸送に関しては安心だという説明を聞いています。ですので、津波高潮以外の対策は整っていると思います。あとは、どうやって防寒するとか上屋をどうして確保するとか、そういったことが課題です。でもなんとかしのげないこともないときき火をしたりして。でも、津波高潮の問題は、今の避難所が市営県営の 3 階以上となっているので非常に脆弱で不安なので、この施設にそういう部分を一部機能として、両立させてより安全安心を目指してほしいというのが、もともとの住民の要望だったんです。

市民： 過去市営住宅に昇るのに数時間かかって、一晩水が引くのを待つとして、食料はさておき、トイレが我慢できないと思うので、なかなか困難な状況だと思います。

市民： 高齢者の方は亡くなってしまいますよね。

市民： 前回、図書館の分室とか言わせていただいたのですが、市は丸投げして、こういうのができたらと思い描いていたのと簡単なものにされてしまったという印象があります。図書室にしても芦屋市が運営する分室だったら、本館と提携して、いろいろな使い方ができますが、民間さんが本を置いているだけです、皆が集えますというようなことをして、洋書を置いてほしいという方もいましたが、魅力的にはなるのかは疑問です。あと、多世代交流も市営県営が高齢化してきていて、こちらの地域もいろいろな世代の方が住まわっていて、いろいろな方が、子どもを中心として集まれてというイメージをすごく持っていて、県営市営の高齢者の囲碁教室などは人が集まらないということもあるし、せっかくの人材があるのに、その人たちが出て行って子供たちを通じて 3 世代がつながるようなイメージを抱いていましたが、それは、意

図的に市がつながりをつくっていくからできるのであって、民間さんが自由にしてくださいよとなつては、実現しないと思います。芦屋市がここのまちなまちづくりをどうしていこうかと具体的に考えてくださって、私がイメージしているのが、多世代が交流できるという場をつくって、運営も市の人がやってきて市の施策の一環として進めないと、図書室もただ本を置いているだけで、すたれていってしまうイメージもあります。多目的スペースも住民自由に使ってくださいね、だけじゃなくて、ミズノさんはすごく地域に根付いているいろんな活動をされていますから、すごくいいと思います。今度建てようとしている建物を民間さんに任せるとしても市が何かしらまちづくりとして考えていることをリーダーシップをとってやってもらえるようなことがないと、恒久的に芦屋市にとって魅力的なものにならないと思います。認定子ども園にしても公立のものにしてほしいということもありましたが、民間に任せていくと保育内容、教育内容も偏ってくるし、職員もころころ変わるとかあって、公的なものがないとまちづくりが進まないと思います。なぜ、ここに公立の子ども園をつくらうとはならなかったのか、まちライブラリーは聞こえはいいですが市として分室をつくることにはならなかったのかと思います。交流スペースについても、芦屋市の新しく建てる建物で、芦屋市全体の人口減少を抑えたり、高齢者が元気になるとか拠点みたいなものをつくっていただきたいと思っていたのですが、そういうふうにはならないと思います。民間さんが、案を出されたとして、一番いいものを選びましょうかというふうになるのでしょうか。芦屋市としては、こういうふうにやっていきたいというようなものを出していかないことになるという印象を持っています。どうでしょうか。

司会： 全体の事を言いますと市としての関与が全くないのではないかとということですが、事業者の方々に公募をしようと思っています。公募するために条件があります。こんなことしてください、あんなことしてくださいという書面になります。その中で、おっしゃっていることは十分関わっていけると思っています。市としてやるべきことはこれだという意思表示です。これを持って事業者を募集するわけですから、市が一切関与しないということはないでしょうし、市の方針に基づいた事業が、その中でできるということになります。

市民： 民間さんだったら、方針が変わる、母体が変わってしまう気がします。ここに住み続けていいまちが出来上がっていくようなイメージが湧きにくいです。

市民： 補足しますと、総合公園のように。指定管理は5年じゃないですか。5年たつて新しい指定管理者が来られるたびにゼロベースですよ。引き継ぎも全く

なされてないに等しいです。自らのノウハウだけでやられて、おっしゃっていることはものすごくわかります。次どういう形でされるかわからないですが、破たんでもされたらまたおかしなことになっていくわけですから、おっしゃられていることはすごくわかりますし、市の関与はほったらかしの状況はあります。はっきり言いますけど。

司会： ご不安が無いようにやるのが市の役目だと考えております。

市民： 芦屋市さんのやり方を見ているかぎりにおいては、これから介入してもらえるかわかりませんが、やはり少なくとも最低限コンプライアンスをしっかり守れる企業にするという観点を欠落されています。ミズノさんのファンでもないが、大企業として是々非々でやられています。そういうこともしっかりやってもらわないと住民は不安になります。

司会： 不安にならないようにしっかり取り組みます。

司会： 基本的にはこの案をやめられてミズノスポーツでいいのではないですか。お金もかからないし。20億円も勿体ないですけど。太陽光パネルでも付けて、自分たちの電気を賄ったらランニングコストも抑えられるのではないですか。こんなつまらないもの作ってもらう必要はないです。税金がもったいないです。

市民： いろいろなご意見を聞かせていただきましたが、まちづくりについてまとまっていくと思って出させてもらったのですが、なかなか住民の意見が伝わっていないという意識がものすごくしています。それは、冒頭に申されたようにパイプラインについても小学校であってもそうだったと思います。今回の案内もスポーツ推進課でしたが、おかしいと思いました。本来なら都市計画課がやるべきものですよ。都市計画課というのは、企業庁とタイアップしてやっているのでしょうか。今度の芦屋市総合計画で、都市計画課はどういう役目ですか。

司会： 都市計画マスタープランの中で個々にいろいろな計画があります。

市民： 南芦屋浜に対して企業庁と協議しながらつくり上げていくと。目標年度は何年ですか。

司会： 平成30年ですね。

市民： そうでしょう。目標年度を30年に伸ばしたわけですよ。確か一回目は26年か27年だったと思います。それを企業庁はなぜ伸ばしたか。もともと教育施設用地として、平成10年から教育施設用地としていたのが、まだミズノに貸したままであると。ミズノの期限も来ると。それから市長が小学校建設だと慌てて言われたわけです。非常に検討不足だと思います。今も色々なことを言われていましたし、個人的にはいろいろ聞かせてもらった意見では、早急にやるべきではないということを感じた次第です。防災についても全く

話がついてないです。一方、第4次総合計画ですが、平成27年で前期終わりますね。市民アンケートもされていますね。それを見ますと、びっくりしたのですが、今住んでいるところが住みやすいかという問いに、芦屋市全体では、41%の人がかなり住みやすいと回答しています。しかし、南芦屋浜は最低です。28%です。交通の便は悪いし、教育環境は悪いし、いろいろなことが出ていました。そういうことをご存知ですか。都市計画課として。

司会： そういったことは、市全体に伝わっていることです。

市民： そうですか。市民アンケートと同時に、職員についても昨年アンケートされています。驚いたことは、芦屋市の総合計画について、職員の7、8割が計画を知りませんと。なおかつ、自分の担当している重要事項も知りませんということに驚きました。ということは、失礼ですが、企業庁の潮芦屋プランも芦屋市の一担当としては携わっているかもしれませんが、皆さん知らないと思います。小学校についても急に出てきて。2学級になったら小学校をつくると言っていたのが、2学級になってもやらなかった。ずるずると切れたんです。その間に、住民と今と同じような話し合いをしたのか非常に疑問です。そのあたり、反省してもらって総合プランは芦屋市全体の事ですよ。当然住民にも知っていただいて、前期が終わったら住民のアンケートを取って、南芦屋地区もいろいろな問題が出てますよ。当然それに対して工期をどうするかということになります。芦屋市の担当のところは、やはりなんとかしないといけないということで、全てできないにしてもある程度はやっているということを示してほしいと思います。総合計画を職員の8割が知らないということは、住民が知らないということも当然ですよ。そのへんはやはり、住民と一体となって、やってほしいと思います。これだけ問題があるのであれば、もっと検討をつくすべきです。防災についてもまだ、回答に納得されていませんし。

市民： 前回の説明会を受けて、それから1ヶ月たってこの内容が出てきたことは、正直、何をしていたのという話になりますよね。進捗としては、1%も進んでいないので、前に出した資料をイメージ図にして出ただけで、結局何も変わっていない。住民の意見も入っていない。1ヶ月何をしていたのという話になります。どれくらい的人数でプロジェクトが動いていたのか気になりますし、これくらいのものしか出てこないのは税金泥棒といわれてもしょうがないと思います。山城さんが5月に決着したいとおっしゃっていましたが、この状態で5月となると目に浮かびます。このまま住民の意見を置き去りにされて。私は、このような図が出てくるだろうと予想していましたので、驚きませんでした。住民の意見を聞くふりをするなら、最初からこういう会を開催しないほうがいいでしょう。それをするることによって、どれだけの時

間をとられるかという話になりますし、市の職員の皆さんも給料が税金から出ますし、何もかも無駄だと思います。結局すべてが無駄なら、最初からやらない方がいいです。1ヶ月かけてこれだけのものしか出ない状態で、あと2ヶ月しかないのですよ。これでいったいどういう決着をつけるつもりなのか。もし、4月に開催するならば、少なくとも出される情報を事前に教えてください。この情報を見たら、もう行かなくていいやとなりますので。わざわざこれだけの人数を集めて、時間とお金をかけてこれでしたと、こんなものやるだけ無駄じゃないですか。そんなことに時間を費やさないでください。

市民： 今のご意見ですが、個人としては、今までパイプラインの問題と小学校の問題はいたし方ないと諦めてましたが、今回の件は、皆さん全員反対じゃないですか。なし崩しにやられたら大問題になりますよ。そこを理解してもらわないと全く理解できないですよ。

市民： これは、コンサルタントかプランナーにオーダーして描かせたものですか。考え方とか、施設の計画とか。

司会： 考え方は、市とコンサルタントさんの力を借りてつくったものです。

市民： コンサルタントが全てやったものではないと。これは。ウォンツ（要求）やニーズがどこにも生きていないですね。これは、ここを特定したものではなくどこにでも当てはまる絵で、このコンサルタントを雇ったのはまちがい。それと、指定管理で、この地域でずっと失敗してきている原因をご存知ですか。

それと1回失敗して、2回目の失敗に気付くべきですが、誰も聞かなかった。阪神農園にここを運営する能力はゼロですから、それを選んだところがまちがいです。ここも同じことになると予言しているのです。僕は開発者ですから、見た瞬間に、何これ、本気でやるのかと。皆が心配していることは分かります。やらないのなら、やらないと言わないといけないし、そうでないと、指定管理者として、どなたかが手を挙げたとして、開業して皆さんが思うとおりの収益は出ないですから、自然に形が崩れていきます。どの辺まで落ちていくかも予測できますよ。ビジネスモデルもできていないです。それは、芦屋市さんがチョンボをするところにいると思います。これを出してきたコンサルにするのは間違っています。ものすごく古いプランです。誰の望むものもつくっていない。防災は不得意ですけど、どの機能を果たせない。堅牢な建物とかできるものになりませんかでしょう。脆弱なものになるのでしょうか。全部皆さんの望んでいるものが、どれも反映しないのであったら、時間とお金の無駄ですから。みんなのための斬新なプランを構築しないと、教育関係の人では無理です。

市民：

息子は、三条小学校の最後の卒業生でした。その後、校舎は一部だけ残って、芦屋市の三条分室という形で今残っています。小学校は無くなりましたが、コムスクは残っています。なぜ残ったかという、芦屋川西岸の避難所になる場所だからです。山手中学校は避難所になりません。西山幼稚園が避難所になったのは、平屋2階建てで川のすぐ横にあって、2階まで階段に上がって、確かに高い場所にはできています。この地区の防災の事を考えたら地域住民が立ち上がらないといけないということで、日々市と交渉を続けている状態です。私の地区にもこのことと同じような集会所があります。お金をかけませんでした。ここの悪口を言うてはいけませんので、この建物が建ったのは、小学校ができるというあてがありましたが、2階建てだから2階に逃げればいいのかというそうではないですよ。3階に逃げないといけない。そう考えたら、まだまだ避難する場所は、きっとあるでしょう。公共施設がいっぱいあります。マンション、いっぱいあります。そういう人たちにすみません、避難させてくださいとお願いすれば、病院、高齢者施設どこもいたらへんという意地悪なことを言うような人は、そこで仕事をしている人ではなく、たくさん堅牢な建物はたくさんあります。でも、核になる芦屋市が運営してやっていく地域住民の人が出入りしやすいような核になるものは、やはりこれだけ広大なところなのだからつくらないといけないと思います。ですから、集会所という意味でいうと、ここでは意味がない。皆さん、そういう意味では、もっとも市の人たちは、三条小学校を廃止した時には、芦屋市は破たんしていたから、その時に校長先生と教頭先生の年間所得を考えてください。それを芦屋市は払えなくなったのなら、諦めて私学に行ってくださいと口の悪い人は言います。実際、今山手小学校などは、定員オーバーで仮設に通ってます。ということ全部考えて、ここの小学校はないことになりました。では、どうすれば、地域住民の人たちは、自主運営をしながらでも地域の安全、子育ての安心できる相談窓口になってくれる人が来てくれる場所をつくれるのか。福祉センターまで逃げればいいのかもかもしれませんが、福祉センターには、全市から集まってきます。だから、要は2号線より上でないとだめという話ですね。そういう意味で平行移動していくしかない現状を考えて、この地区は、そうでないものを要望していかないと芦屋市としてそれだけの予算が取れないと言っているわけですから、大変心配しているのは、この計画に向けて建設費は、どれだけ用意するつもりがあって、運営費をどれだけ用意するつもりがあるのかということをも市民の人は投げかけていかないと、民間に譲ろうという感覚のほうが、芦屋市の人自分たちの責任逃れになるわけですし、防災問題も防災にはいくらお金があっても足りないんです。みんなの知恵でどうにかするしかないんです。だから、皆さ

ん、もっともっと自分たちはどんな協力が隣の人を助けてあげようという気持ちになるようなまちづくりをする。皆さんどんどん協力しますよという気持ちを言いながらしないと芦屋市は予算も取ってくれないということがあると思います。ぜひ、がんばってください。三条小学校の残っている施設は、残った理由があつてのことです。拠点となるものを集会所だけに求めるのではなく、具体的に予算の取り方もあわせて要望していった方がいいと思います。

市民： お気持ちはわかるのですが、ここは新興住宅地でまだ 10 年前後です。自治会の無いエリアもかなり多いです。協力という観点から自治会活動をやっていますが、民度が高まる状況にはなっていません。芦屋市に何十年と住んでいる顔見知りの方々に、一致協力していくというかたちは、当然我々の課題としてやっていかないといけません。現状すぐにそういうことが立ち上がるかということ、かなり困難な状態です。ですから、先ほど言われたように、芦屋市都市計画マスタープランや総合計画とか、しっかり我々のことを考えていただいて、我々が納得できるプランを出してきてもらわないと困ります。その点、強く申し上げているわけですから、しっかり理解して回答してください。

司会： これで、予定時刻もだいぶ過ぎましたので、これで終わりたいと思います。ご意見ご要望を頂戴いたしましたので、調整いたしまして、こういう場を設定したいと思います。なお、先ほどご要望があったということは、困難でございまして、日時を皆様にお知らせしますので、一堂に会していただき、ご足労おかけしますが意見交換会をさせていただきたいと思います。時間をかけることなく、我々十分やっていきます。4 月の中旬程度を目途に設定しようと思っておりますので、また、いろいろなところでお知らせさせていただきます。ありがとうございました。